

【様式1】

概要書

<p>研究名</p>	<p>ISO9001:2015に基づいた円滑な製造</p>
<p>民間機関等 (相手方)の名称</p>	<p>株式会社 坂本技研</p>
<p>研究の概要</p>	<p>1. 研究の目的          本研究では、昨年度から継続して ISO9001 : 2015 の運用上の問題点の抽出や円滑な製造の実現をテーマに取り組んだ。現材使用されている標順書や手順書等以外に、品質の安定や向上および作業効率の向上のために必要となる各種手順書等の調査・作成から工程への整備・活用が必要であることが明らかになっていた。そのため、未実施の場合の問題点や影響度合、実施した場合の効果などについて研究することにした。成果としてのアウトプットは、本研究の取組み企業や高知県工業会や高知県中央会に所属する企業での日常の製造活動やOJTでの活用に供する。2015年度から2020年度に実施分したISO9001:2015の内容を含む能力開発セミナーにおいて、認証取得している企業や上記団体からの受講が多数あることから、その必様性が示されている。</p> <p>2. 研究の内容          各種手順書等の調査・作成から工程への整備・活用について、未実施の場合の問題点や影響度合、実施した場合の効果などを研究した。製造工程間だけではなく、取引関係にあるサプライチェーン間も対象に含めた。その結果に基づいて、各種手順書などを作成した。</p> <p>3. 研究の成果          本研究で作成した手順フロー図や帳票類は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 製品実現の管理手順フロー図関係          「是正・(予防)処置記録書」、「供給者評価記録書」、「受入検査成績書」、「測定機器校正検証記録書」、「不適合製品処置書」、「引渡し製品」、「不適合処置書」 など</p> <p>(2) 内部監査の管理手順フロー図関係          「内部監査指摘処置書」 など</p>

研究の概要

本研究の取組み内容や帳票などの成果は、製造部品・製品の違いによる影響の低減を目的として、標準的なものになっている。このことより、高知県工業会や高知県中央会に所属する企業やサプライチェーン間での日常の製造活動やOJTでの活用が期待できる。専門課程の学生については、就職予定企業での取組み方法を製造（加工）・測定・品質管理や総合制作実習などの科目および実習において、事前に習得することができる。

企業側担当者に、本研究の取組み内容や帳票について、ヒアリングを行った。

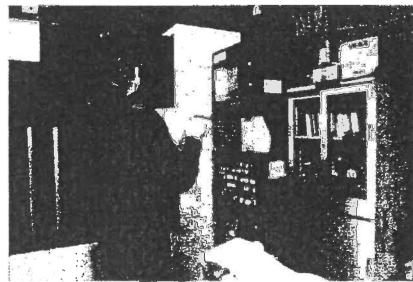
質問1：「今後も議論をする機会はあるか」 回答：「ある」

質問2：「今後も議論をする担当者はいる」 回答：「いる」

質問3：「今後も必要か」 回答：「継続的に必要」

との結果を得た。

下図は、本研究の取組み内容や帳票について検証を行っている様子である。図(a)は、作成側によって「帳票（記録）として十分なレベルであり、項目に漏れがないか」、「OJT資料にできるか」などについて検証を行っている様子であり、図(b)は、活用側により「記入しやすいか」、「解釈の違いにより意図しない記入・活用にならないか」などについて検証を行っている様子である。



(a) 作成側による検証



(b) 活用側による検証（当校修了生）

図 検証の様子